

本授業の主張点

江戸時代と現在の佐賀県の状況を関連付けながら、これからの佐賀県がやるべきことを鍋島直正の改革から考えます。今と未来を生きる子ども達が、歴史からヒントを得ようとする授業を目指します。

1 単元名 「鍋島直正と佐賀県の未来」

2 単元の目標

江戸時代の幕藩体制や佐賀藩の当時の状況を理解し、鍋島直正の業績をもとに、これからの佐賀県のあり方について考えを深めることができる。

3 評価規準「学力デザイン レベル3より」

- 江戸時代と今の佐賀藩(県)の状況に関心を持ち、改革の目的や内容について意欲的に調べようとしたり、進んで討論に参加しようとしたりする。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 当時の状況をふまえて佐賀藩の財政、教育、科学技術の改革について考え、現在の佐賀県の状況と比較しながら佐賀県の未来についての考えを表現することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- 佐賀藩の状況や財政、教育、軍事・科学技術の改革について、資料を取捨選択し、自分の考えの根拠として活用することができる。(観察・資料活用の技能)
- 佐賀藩の状況と財政、教育、軍事・科学技術の改革を関連付けて理解することができる。(社会的事象についての知識・理解)

4 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は社会科の学習に意欲的に取り組むことができる。中には、学習内容に関連する資料を図書室から借りてきたり、インターネットを使ってデータを集めたりして、学習に臨む児童もいる。既習単元「3人の武将～信長・秀吉・家康～」の学習では、3人の武将の政治的能力を現在の日本を取り巻く状況においてどのように活用すべきかについて考える経験をした。児童は3人の武将の生き方に関心を持ち、業績について詳しく調べ、当時の状況と今の日本の状況で似ているところを見い出し、日本の外交問題や経済の問題をどのように解決すべきかについて、自分なりに考えをもつことができた。歴史の学びを現在の社会的問題と関連付け、活用することにも慣れてきているところである。

また、児童は話し合い活動にも意欲的に取り組むことができる。ある程度の話型が必要な面はあるが、自分の考えを根拠を明らかにして発表したり、友達の意見に対して反対意見を述べたりすることもできる。ただ、反論や再反論が続いていくと、資料から離れ、少しずつ自分の思いこみや予想を述べる児童も多く、資料を活用して、誰もが納得のいく考えを述べる児童はそう多くはない実態である。

本単元で取り扱う内容に関する事前アンケートによると、全員が本校に隣接する佐賀城本丸歴史館を見学した経験があり、「鍋島直正」が佐賀藩の殿様であることを知っていた。ただ、直正が当時の佐賀藩の状況の中でどのような改革を行ったかについて知っている児童はいなかった。

(2) 単元の意義

江戸時代の佐賀藩は、藩政の成立当初から厳しい財政難に苦しんでいた。参勤交代や長崎警護にかかる費用、また江戸藩邸や大阪藩邸を維持していく費用などの負担が大きく、加えて他藩に売ることのできる特産品をほとんどもっていないという藩の事情も影響していた。こうした財政難は凶作・大飢餓、大洪水、台風などの自然災害により更に深刻となった。そのような厳しい状況の中で、藩主・鍋島直正は次々と改革を進めていく。彼の改革の主なものに「財政改革」「教育改革」「軍事・科学技術改革」があるが、これらの改革は現状を変革するに留まらず、佐賀藩を幕末の雄藩た

らしめ、技術力や人材が明治新政府においても非常に大きな力を発揮することにつながっていく。

佐賀県に住み、佐賀藩主の居城であった佐賀城内で学ぶ児童にとって、佐賀藩の歴史を学び、藩主の偉大な功績を詳しく知ることは大変意味のあることである。特に 10 代藩主直正の強力なリーダーシップには、学校の最高学年として活躍する立場からも参考になる部分も多い。さらに、未来の佐賀県を担っていく児童にとって、当時の佐賀藩と今の佐賀県の状況を比較し、歴史から佐賀県の未来についてアイデアを得る経験は、歴史を学ぶ意義をより強く感じさせる上でも大変意義深いものである。今年生誕 200 周年を迎え、県内でも関心が高まる鍋島直正について知ること、県内のニュースに目を向けるきっかけになっていくことも期待している。

(3) 指導上の着眼点（視点の具体化の側面から）

本単元では、鍋島直正の藩政改革について理解を深め、当時の佐賀藩の状況と現在の佐賀県の状況を比較していく中で、児童なりに未来の佐賀県について考えていくことをねらっている。その際、その考えが当時と今の状況に応じたものになっているのか判断していくことを求めたい。そのため、全 15 時間の単元の過程において以下の点に留意しながら指導を進めていく。

まず、「であう／つかむ」過程では、歴史の学びで獲得した知識・技能・考えを未来の佐賀県について考える際に活用し、力を入れるべき政策を現在の佐賀県の状況から導き出す必要性を感じさせるために、「これからの佐賀県が力を入れるべき政策」についてのパフォーマンス課題を提示する。同時に、単元の指導目標を児童に分かりやすく示したルーブリックを提示し、見通しをもたせ、ねらいをしっかりと意識させていく。

次に、「調べる」過程では、佐賀藩や直正の改革について調べる時間をとる。夏休み中に、収集した直正に関連する資料を紹介し合いながら、知識を確実に習得させていきたい。また、隣接する本丸歴史館に見学に出掛け、直正の業績についての理解を深める機会とする。また、佐賀県の現在の状況については、夏季休業中を活用して、各自で調べる時間をとっている。調べた結果は、随時ガイドブックに書き込みをさせていくことで、学びの足跡を残させるとともに、討論や提案文作成に活用させる。

「高める」過程では、2回の討論を行い、当時の佐賀藩と未来の佐賀県について考えさせる。その際、重要視すると判断した状況を考慮に入れた討論になるように留意していく。直正が当時の状況に応じて行った改革「財政」「教育」「軍事・科学技術」に目を向けさせ、今の佐賀県の状況に照らし合わせて考えた時に、何かヒントになるようなことはないかを重点的に考えさせる。歴史の学びを活用することで、歴史を学ぶ意義を感じさせると同時に、直正の偉業に気付くことにもつながるであろう。

「ひらく」過程では、単元全体の学びをふり返らせ、パフォーマンス課題に取り組ませる。提案文の送付先を佐賀県知事と確認することで、相手意識と目的意識を明確にもたせて取り組ませ、社会とのつながりを実感させたい。作成した提案文は、友達と読み合わせ、自他の学びの深まりを実感させたり、今後の学びに対する意欲を喚起させたりするように留意したい。また、学びの成果を、佐賀市で来年 1 月に開かれる「歴史フォーラム」で発表する計画を組むことで、本単元の学びへの意欲が継続されていくこともねらっている。

5 指導計画（全 15 時間）（ 視点）

過程	時配	主な学習活動（○）と 予想される児童の反応（・）	指導上の留意点（○）	評価
であう／つかむ	1 2	○ 今の佐賀県の状況を確認する。 ○佐賀藩の当時の状況や改革の概要をつかみ、パフォーマンス課題とルーブリックの内容を知る。	○ 調べてきたことを全体で共通理解できるように、夏休み中に調べてきた佐賀県の状況について簡単に伝え合う場を設定する。 ○ 当時の困難な状況に関心をもたせるために、財政難や凶作、大洪水などの資料を提示する。 ○ 時代のイメージをつかませるために、江戸時代の幕藩体制についての学習内容を想起させる。	関
パフォーマンス課題 佐賀藩主鍋島直正の改革（財政、教育、軍事・科学技術）について調べ、当時の佐賀藩と今の佐賀県の似ているところから、これからの佐賀県が力を入れるべきことを、直正の改革をヒントに考えなさい。そして、佐賀県知事に提案しなさい。				

		<ul style="list-style-type: none"> ○ パフォーマンス課題を分析し、問いをつくる。 ・鍋島直正の改革はどんな内容か。 ・佐賀藩の様子や人々はどんな生活をしてきたのか。 ・どんな改革をしてどんな効果があったのか。 ・今の佐賀県はどんな政策がされているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べる必要感をもたせ、調べる内容を明確にするために課題で分からない言葉を確認する。 ○ 個人だけでは気付かない問いに気付かせ、他者と共通の問いをもたせるために、グループで問いを分類・整理する場を設定する。 ○ 既習の内容を生かして調べ学習が進むように、江戸幕府の政策と関連付けた問いもつくるように声かけをし、問いをつくっている児童を価値づけする。 	
	3 4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 直正の改革について調べ、分かったことをガイドブックに書きこんでいく。 ○ 本丸歴史館に見学に行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当時の佐賀藩の状況が分かりやすいように、前単元「徳川の世」で学んだことを振り返らせる。 ○ 調べて分かったことを、ガイドブックにまとめさせていき、学びの足跡を残していく。 ○ 直正についての知識が深まるように、本丸歴史館館に出かけ、調べる時間を設定する。 	関・知
調 べ る	8 9 10 11	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当時の佐賀藩と今の佐賀県の状況を見い出す。 ○ 当時と今の状況で似ているところはないか、考える。 ・夏の雨の影響で農作物が不作だと言われている。当時の藩財政の窮乏と似ているかもしれない。 ・ICTを活用した授業など佐賀県は全国的にも進んでいるね。当時、教育に力を入れた状況と似ているかもしれない。 ・当時、進んだ科学技術力で大砲や蒸気船を造っている。今の佐賀県もILC(国際リニアコライダー)計画に力を注いでるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 状況相互の関係が分かりやすくなるように、関係する言葉を状況としてまとめながら、立場や影響といった構成要素を「状況マップ」の中で明らかにしていく。 ○ 佐賀県の今の状況を江戸時代の状況と比較しやすいように、「経済」「教育」「科学技術」の分野ごとに、関わりのある立場や影響を調べ、まとめていく分析表を活用させる。 ○ 佐賀県の「経済」「教育」「科学技術」の状況について簡単に把握できるように、教師自作の資料を与える。 	知・資
高 め る	12 13 (本 時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 討論をする。 「直正の改革で最も効果的だったものは何か。」 「佐賀県が今後特に力をいれるべきことは何か。」 ・直正は弘道館を充実させ、幕末から明治にかけて弘道館出身者が活躍した。これからの佐賀県もICTを活用した授業などに力を入れ、優秀な人材を育てていくべきだ。 ・直正は質素儉約の生活を奨励したり、特産物を作ったりして、藩の財政を立て直した。これからの佐賀県も農業に力を入れ、財政を豊かにしていくべきだ。 ・直正は積極的に西洋技術を取り入れ、大砲や蒸気船を造った。これからの佐賀県もILCや海洋温度差発電などの科学技術に力を入れていくべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 政策の効果を、当時の状況に応じて判断できるように、関わりのある立場や影響に焦点をあてて、討論を進めていく。 ○ 佐賀県が特に力を入れるべき分野について考えることができるように、「財政」「教育」「科学技術」の3つの立場に分かれて討論をする。 ○ 鍋島直正の政策と関連付けて、未来の佐賀県について語るができるように、立論や反論・再反論のフォーマットを準備しておく。 ○ より説得力のある意見になるように、当時と今の状況を比較させ、類似点や差異点に目を向けた主張や反論になるように進めていく。 ○ 論点をはっきりとするように、当時のことか現在のことか明確にして、討論を進めるようにする。 	資・思
ひ ら く	14 15	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意見文を書き、佐賀県庁に提出に行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ある程度自由に記述をさせるが、作成が苦手な児童には書きやすいように、意見文の型を与える。 ○ 教室の学びと現実社会とのつながりを実感させるために、実際に佐賀県庁に赴き、提案文を担当の方に手渡しする時間を設定する。 	知・思
課 外		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「佐賀市キッズ歴史フォーラム」に参加し、学びの成果を発表する。 (平成27年1月25日予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 佐賀県の今後について、鍋島直正について学んだことを生かしながら発表し、市民の方に評価してもらうことで、学びの意義を実感させる。 	関

6 本時の指導（本時 13/15）

(1) 目標

これからの佐賀県について、当時と現在の時代状況に応じた考えを述べたり、記述したりすることができる。
【社会的な思考・判断・表現】

(2) 展開（ 視点）

学習活動（・児童の反応予想）	教師の働きかけ（○）と形成的評価（◆）
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <p style="text-align: center; border: 1px dashed black; padding: 5px;">鍋島直正の改革から、これからの佐賀県が力を入れるべきことは何か考えよう。</p>	<p>○ 本時のめあてをつかみ、学びの意義を感じやすくするために、歴史の学びを生かすことの大切さを話す。</p> <p>○ 本時への意欲を高めるために、次時に佐賀県知事に提案文を書くことを伝える。</p>
<p>2. 佐賀藩と佐賀県の状況に関わる立場や影響を確認する。</p> <p>3. 討論する。 論題 「佐賀県が今後特に力を入れるべきことは何か」</p> <p>(1) 立論する。</p> <p>○教育改革から (直正は弘道館を建て、弘道館出身の人達が、その後活躍した。まずは人材育成が大事だと思う。佐賀県もICTを活用した授業などに力を入れ、優秀な人材を育てていくべきだ。)</p> <p>○経済改革から (直正は質素節約の生活を奨励したり、特産物を作ったりして、藩の財政を立て直した。何をすることも予算が必要である。佐賀県も農業に力を入れ、財政を豊かにしていくべきだ。)</p> <p>○軍事・科学技術改革から (直正は積極的に西洋技術を取り入れ、大砲や蒸気船を造った。将来を考え、他藩に先駆けて取り組むことが大切だ。佐賀県もILCなどの科学技術に力を入れていくべきだ。)</p> <p>(2) 反論する。</p> <p>○財政改革に ・財政改革では、庶民の楽しみだった祭りをやめるなど、人々にとって辛いものもあったのではないか。(A)</p> <p>○軍事・科学技術改革に ・当時、西洋の技術を取り入れるにしても、弘道館の運営をするにしても、多額の予算が必要だったのではないか。よって、これからの佐賀県もまずは予算や人々の収入を増やすことに力を入れることが先決ではないか。(B)</p> <p>(3) 再反論する。</p> <p>○財政改革から ・確かに庶民の楽しみであったかもしれないが、庶民も節約に協力したという資料がある。皆が何とかしたいという気持ちがあった。(A)</p> <p>○軍事・科学技術改革から ・今はどの都道府県も観光などに力を入れている。佐賀県は他県にないものを取り入れ、将来的に伸びる可能性があるものに力を入れるべきだ。ILCに力を入れることで、世界的にも有名な国際都市になっていくはずだ。(B)</p>	<p>○ 状況を意識しやすくするために、今と昔の状況に関わる立場や影響を、状況マップや分析表の拡大をもとに、確認させる。</p> <p>○ 状況をもとにした意見になるように、分析表の立場や影響を根拠に意見を書いている児童を賞賛する。</p> <p>○ 状況をもとにした立論になるように、分析表の立場と影響の欄から立論部分の記述に線を引くように伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆立場や影響を考慮に入れて、立論を記述しているか。 【ノート、発言】</p> <p>◎立場や影響を生かして、複数の意見を記述している。</p> <p>○立場や影響を生かして意見を記述している。</p> <p>→別の立場や影響でも考えるように声かけをする。</p> <p>△分析表の立場や影響とは関係のない意見を記述している。</p> <p>→分析表の記述を指し示し、この人たちの影響を改善できるかなどと問いかける。</p> </div> <p>○ 状況を意識した話し合いになるように、児童の発言を分析表（拡大）とをつなげて整理する。</p> <p>○ 個人では気付かない反論のポイントに気付かせることができるように、反論や再反論の前に、同じ改革のグループで話し合う場を設定する。</p> <p>○ 資料を根拠にした討論として相手を納得させることができる内容になるように、歴史的事実とは別に本人の思いこみで意見を言っている場合は、根拠となる資料を伝えるように声かけをする。</p> <p>○ 反論や再反論を考えやすく、学びが深まるように、反論のパターンを2つワークシートに表記しておく。</p> <p style="margin-left: 20px;">A：当時の状況での立場や影響に目を向けたもの</p> <p style="margin-left: 20px;">B：今の状況での立場や影響に目を向けたもの</p> <p>○ 議論がかみ合い、考えが深まっていくように、昔と今のどちらに反論しているのか分かりやすいような板書をしていく。</p>
<p>4. 本時のまとめの文を書く。</p>	<p>○ 本時のめあてのふりかえりがしっかりと行えるように、めあてに応じた記述（当時と今の状況）ができている児童を意図的に指名して発表させる。</p>

